

非体験者による語り継ぎをめぐる 民俗学的研究 ～旧産炭地筑豊をフィールドとして～

国際文化学部
日本文化学科
講師

川松 あかり



研究シーズの紹介

かつて日本最大の炭田であった筑豊地域で、炭鉱に生きた人々の歴史を語り継ごうとしてきた人びとの実践の可能性を、地域住民の暮らしや実践の場に加わらせていただきながら探求しています。

炭鉱閉山後の筑豊では、地域の歴史と文化を遺し、自らの手で地域の暮らしを改善しようとする多様な取り組みが行われてきました。炭鉱閉山から約半世紀が経過し、現在では

炭鉱労働経験を持つ人々は少なくなっています。さらに、閉山後の地域で炭鉱の歴史を継承し、地域づくりに取り組んできた人々もまた、高齢化しています。こうした人々の生活史・人生史にじっくりと耳を傾け、活動に加わることで、筑豊に生きた人びとの歴史を非体験者である私たち自身の生き方を創造するための知として編みなおし続けています。



筑豊における 民俗学的実践

- 聞き書きや参与観察調査により、そこに生きる人々の視点から歴史と文化を捉えることが可能です。
- 自分たちの歴史を自ら学び他者と話し合うことで世の中をより良くしようとした民俗学の理念と方法を、現代的な実践として応用しています。



期待される活用シーン

● 子どもたちや、炭鉱を知らない地域住民にも、郷土の歴史を学んでもらいたいなあ。



筑豊の地域住民に対する豊富な聞き書きやフィールドワークを基に、生き生きと炭鉱の歴史をお話します!



● 地域の歴史や地域に根付いた文化を活かしてこれからの地域づくりを考えたいなあ。



一人一人の生活者や身近な地域の歴史を掘り起こし、話し合いや地域活動を共に構築するパートナーになります!



地域の人々の抱える社会課題解決に向けた取り組みへの参画と協働

その他の研究テーマ

- 民俗学的ナラティブ研究、特に「世間話」研究の意義に関する理論的研究
- 現代における体験の「語り部」の生成に関する研究